

「まえがき」

本書は、ひとりの幼児の心の発達を見守り、その観察結果から見えてくる、幼児の生き生きとした心理状態について書き綴ったものである。「幼児はいかに教育すべきか」とか「親たちは幼児にどう対処すべきか」などを論じたものではない。ただただ幼児の行動と心の働きを観察し続けただけの記録である。また、多くの幼児を観察してその結果の平均値を出したり、客観的データを引き出そうとしたものでもない。一個体を長年にわたって観測し続けたものに過ぎない。したがって、孫娘と共に過ごした記憶をもとにしたエッセーというべきであろう。

幼児を少し離れた立場から観察して、その幼児の心の動きや心の発達を見ていると、それは驚きの連続である。幼児が発信する信号を注意深く受信していると、思いがけない発見に出会い、教えられることが多い。どのようにして心と呼ぶべき働きが芽生えてくるのか、その心の働きがどう変化し発達していくのかを見るのは、感動としか言いようがない。

この感動を多くの人々と共有することが出来れば幸せだと思い、幼児の心から発せられる密かな信号に耳を傾け、心の働きを感知するように努めて、本書を書き綴った。

平成三〇年七月

牟田泰三